24. 2022年度　中学入試問題　出題のねらい・講評と難易度

● 2022 年度　中学入試　第 1 回　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1　a	98%	99%	問題文に対する文章読解だけではなく、それに付随した「マニュアルの解釈」という発展的な問題を出題した。文や言葉の解釈がしっかりとできているかを、この大問のねらいとした。	本文に「演繹論理」「帰納論理」等の難しい語句が出ており、難解な文章のように感じられたであろう。しかし、その語句の意味を説明した箇所をしっかりと理解し、意味内容のまとまりを作ると全体像が見え、解釈ができるはずである。分からない内容・語句に出会ったときにそのまま読み進めるのではなく、じっくりと解釈することも必要である。
	b	19%	25%		
	c	89%	93%		
	d	94%	98%		
	問 2	30%	35%		
	問 3	51%	60%		
	問 4	84%	90%		
	問 5	67%	77%		
	問 6	52%	59%		
	問 7	25%	33%		
	問 8	50%	57%		
	問 9	38%	45%		
2	問 1　A	50%	58%	受験者層の実力を考慮し、受験生よりも年齢を重ねた人物が登場する小説から出題した。設問の型としては従来通り語句の意味と、主に視点人物の心情を説明するものがほとんどだが、表現に関する設問も1つ出題した。	問1Bの「面食らう」は受験生にとっては耳慣れない語句かと予想したが、ほとんどの受験生が正解できていた。語彙学習の成果が窺える設問となった。対して問10の表現に関する設問では正答率が全問中一番低い結果となった。インプットに加えてアウトプットも要求される昨今の状況に備え、ぜひとも表現に関する意識を高めてもらいたい。
	B	94%	97%		
	問 2	94%	97%		
	問 3	83%	88%		
	問 4	78%	83%		
	問 5	61%	68%		
	問 6	82%	89%		
	問 7	56%	67%		
	問 8	83%	91%		
	問 9	85%	90%		
	問 10	43%	47%		
3	問 1	40%	45%	例年どおり、詩歌と知識問題を組み合わせた融合問題として出題した。詩歌の読み取りはとかく軽視されがちな分野ではあるが、言葉一つ一つにこだわり、書き手と読み手のイメージを重ね合うという言語活動の基礎となるものなので、時間をとって学習してほしい。	全体的には非常によくできていた。ただ、知識問題に比べて詩歌の読解に関する設問の方が得点率が下がっている。詩歌の学習時間の少なさが一因かもしれない。問1は表現技法を理解したうえで、それが使われているかていねいに確認する。問5は季語やおもしろみを確認する。問7も単なる知識ではなく、作品中の表現に即して考える。以上の問いで差がついたようだ。問10①は漢字では「地」だがひらがなでは「じ」。かなづかいも問われている。
	問 2	49%	57%		
	問 3	48%	54%		
	問 4	78%	84%		
	問 5	78%	86%		
	問 6	60%	65%		
	問 7　①	88%	93%		
	②	48%	53%		
	問 8	90%	95%		
	問 9	67%	75%		
	問 10　①	43%	48%		
	②	69%	78%		
	③	50%	57%		

● 2022 年度　中学入試　第 1 回　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	93%	96%	四則演算、単位換算、特殊算、整数、数列、図形と幅広く出題した小問集合。これらは、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。	合格者の得点率と全受験生の得点率との間に大きな差は生じなかった。問8のような回転体の体積は例年出題しており、解答できるようにしておきたい。問6の得点率は全体的に低いため、合否には大きく影響しないものの、ぜひこの問題をとおして数列に対する視野を広げてもらいたい。
	問 2	77%	85%		
	問 3	91%	95%		
	問 4	85%	91%		
	問 5	77%	83%		
	問 6	15%	21%		
	問 7	77%	86%		
	問 8	56%	68%		
2	問 1	64%	76%	材料費に関する問題。袋、びん単位でしか買うことができないというのは、現実によくあることである。そのことを踏まえ、かかる費用を正しく計算したり、特殊算の計算を行うことができるかを問う出題である。	問1は袋・びんをいくつ買えばよいか丁寧に計算し、確実に正解したい。問2は問1の結果を用いる。問1に正解した受験生の多くは問2も正解していることになる。問1を解けた人とそうでない人では大きく差がでた大問であった。
	問 2	40%	56%		
3	問 1	88%	93%	平面図形の問題。相似および面積比に関する知識を活用できるかを問う、基本から標準レベルの問題である。面積比をもとに辺の長さに関する情報を読み取れるかが重要である。	問1の得点率は高いが、問2の得点率がそれほど伸びていないところをみると、相似や面積比の知識を応用的なところまでは、十分に活用できていないことが見て取れる。基本を漏れなく押さえつつ、どこまで応用問題に取り組めるかが大事である。
	問 2	31%	44%		
4	問 1	62%	77%	場合の数に関する問題。規則性を利用しつつ数え上げられるかを問う出題である。問1で石の置き方のルールを把握しているか、少ない場合の数を数えられるかを確認し、問2以降で数え上げのための規則性に気づき利用できるかを問う狙いである。	問1、問2で得点率が伸びていない印象がある。問1はもちろん、問2もすべて書き出すことができるほどの場合の数である。樹形図や（1、4、7）といった表記ですべての場合を書き出せるように練習しておくと、漏れや重複なく数え上げることができ、規則性にも気づけるようになるだろう。
	問 2	56%	75%		
	問 3	39%	56%		
5	問 1	69%	83%	直方体の容器に四角錐と水を入れたときの体積比や高さの比に関する問題。水の量や容器の容積などを的確に数値で表しながら、問題の状況を把握し、高さの比や体積比といった立体図形の計量を行うことができるかを問う出題である。	最後の大問ということもあり、解く時間がなかった受験生もいたとは思うが、問1は確実に得点しておきたい問題である。問2、問3は断面図を描き考察することで、解答の方針を立てることができるだろう。
	問 2	25%	40%		
	問 3	36%	52%		

● 2022 年度　中学入試　第 1 回　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1　1	94%	95%	地球温暖化問題に対する世界的な取り組みが急速に進んでいる。時事的テーマに対する受験生の関心度をはかることをねらいとした出題とした。	日ごろよりニュース報道に関心を持って接しているかどうかをはかる出題（問6・問7）、基礎的事項を正確に理解できているかをはかる出題（問2・問3）の正答率が低かった。学習内容の暗記ではなく、理解を掘り下げる学習を心がけてほしい。
	2	95%	98%		
	問 2	24%	25%		
	問 3	26%	28%		
	問 4	65%	70%		
	問 5	83%	88%		
	問 6	7%	6%		
	問 7	38%	40%		
2	問 1	67%	71%	基本的な歴史的知識を土台にして、答え方の条件を例年よりもやや複雑にして出題した。古代、中世、近現代に関する人物をテーマにして、その周辺事項を確認することを主眼としている。	全体を通してよくできている。問5の正答率が低くなっているが、「すべて選ぶ」と条件が厳しくなっているだけでなく、求められる人物に関する知識も多かったのが原因と思われる。他の設問で確実に正解しておきたい。
	問 2	64%	71%		
	問 3	34%	41%		
	問 4	63%	63%		
	問 5	11%	12%		
	問 6	80%	84%		
	問 7	80%	89%		
	問 8	63%	72%		
	問 9	87%	91%		
	問 10	77%	84%		
3	問 1　1	89%	93%	社会的事象を理解し、読み解く知識、力として日頃の学習を生かしているかを問うことを出題の基準としいる。ニュースに興味を持つ姿勢、そこから何かを感じ考える感性をもつことを重要視したいと考えている。 また、図、表などから読み解く力も日常生活から養いたい。「新聞は繰り返し自分の速度で情報を取り入れることができる媒体」なので様々な学びに波及すると考えられる。そのような点を踏まえて出題内容を精査した。	概ね予想通りの正答率となった。社会的ニュースについて学んでいることが問1～3の正答率に表れている。問4はやや難易度が高く正答率が約50％となった。問5、6の正答率がポイントとなったと考えられる。文章を読み解く力が社会科においても求められることとなった。
	2	83%	89%		
	3	84%	88%		
	問 2	73%	78%		
	問 3	95%	98%		
	問 4	45%	56%		
	問 5　(1) ABD	55%	61%		
	(1) C	58%	66%		
	(2)	31%	31%		
	問 6　(1)	75%	79%		
	(2)	85%	90%		
	(3)	30%	34%		
	問 7　A	93%	95%		
	B	46%	51%		
	問 8	52%	57%		

● 2021 年度　中学入試　第 1 回　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1	85%	92%	人体の臓器の働きについての理解を求める問題を出題した。知識問題だけでなく、背景の理解を問うような問題、文章の読み取り、計算問題などを満遍なく出題した。	問1、3の知識問題、問4の単純な計算問題はよくできていた。 問5、6の文章や背景を理解する問題については正解率が低く、文章読解が苦手な傾向が見られた。
	問 2	68%	74%		
	問 3	96%	98%		
	問 4	86%	92%		
	問 5	26%	36%		
	問 6	59%	72%		
	問 7	53%	60%		
2	問 1	95%	97%	天体に関する基礎的な知識を問うとともに、与えられたデータからどの値を利用するかをその場で考察する問題とした。また、計算力が備わっているかもねらいの一つとした。問6が問7のヒントになっていることにも気付いてもらいたい。	基本的な知識はしっかり学習していることが確認できた。計算については桁数が多かったため、一桁ずれている解答が見られた。工夫して計算することを意識してほしい。問6はもっとも正答率が低く、合格者と不合格者との差も大きかった。
	問 2	93%	95%		
	問 3	94%	96%		
	問 4	74%	78%		
	問 5	66%	72%		
	問 6	26%	33%		
	問 7	43%	50%		
3	問 1	22%	26%	化学反応において、反応した際の生成物、量的関係を理解しているかどうかをみている。基本的な知識が身についているか、実験結果から必要な情報を読み取り、比例計算などを用いて計算が出来るかどうかを問うている。	問1は、重曹の反応が難しかったようである。中学入試では頻度が低いのかもしれない。問2は、日常生活における化学的事象に興味があるかないかを問うているが、受験生には難しかったようである。問3は、頻出問題でよく出来ていた。問4･5は、計算式は簡単であるが、正答率は予想より低かった。問6も、予想より正答率が低かった。化学分野は計算が煩雑になりがちなので、後回しにした結果、時間が足りなくなるのではないかと考えられる。
	問 2	13%	14%		
	問 3　A	88%	92%		
	B	91%	95%		
	問 4	41%	52%		
	問 5	33%	46%		
	問 6	9%	15%		
4	問 1	65%	75%	＜実験1＞はグラフ、＜実験2＞は表の実験結果から規則性を見つけて熱量を求めていく問題である。＜実験3＞は水が油に変わっても、問題文を理解し＜実験2＞の内容が応用できるかを確認したかった。	グラフ、表の値を読み取り計算していく問題は比較的できていた。問3のように、表の結果からわかることを選ぶ問題は考えていたよりも正答率が低かった。また、理科の最後の大問ということもあり解答を出すところまでたどり着けない受験生も多かったように感じた。
	問 2	43%	53%		
	問 3	46%	59%		
	問 4	55%	64%		
	問 5	57%	69%		
	問 6	35%	47%		
	問 7	26%	37%		

● 2022 年度　中学入試　第 2 回　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1　a	94%	96%	語句の意味をひとつずつ取りながら筆者の主張を丁寧に読み解いていくというオーソドックスな形を心がけて出題した。当てはまるものをすべて選ぶ問いや、図からの読み取りを入れるなど、一問一答形式のみにならないようにも心がけた。	全体的に文章の内容はしっかりと読み取っていたと感じている。解答をすべて選ぶ問題も正答率は高かった。しかし、図から筆者の主張を読み取る問題は正答率が低く、図から読み取る情報と、文章の流れからの筆者の主張を合致させることに苦戦したようだ。記述の問題も条件を明示したため、よく書けているものが多かった。
	b	97%	98%		
	c	97%	97%		
	d	96%	98%		
	問 2	36%	45%		
	問 3	81%	89%		
	問 4	83%	91%		
	問 5	80%	89%		
	問 6	73%	81%		
	問 7	7%	10%		
	問 8	49%	53%		
2	問 1　A	25%	26%	物語文の出題は一場面を部分的に切り取ったものが多い。リード文から場面・人物関係などを的確につかみ読み始めるようにしたい。また省略などを意味する「―(ダッシュ)」や「……(リーダー)」といった記号にも登場人物の心情を読み取ることができる。物語を読む習慣が生きてくるような出題を心掛けた。	問 1 や問 5 の語句の意味の選択や空欄補充で予想以上に得点差が生じた。「たしなめる」「たきつける」といった語は語意に前後の状況を加味することが必要。問 2 の「来島京」の心情把握はリード文を含めてどのような状況に置かれているのかが理解できないと、難しかったかもしれない。逆に問 8 の「正岡子規」の顔写真を選ばせる新しい出題は予想外にできていた。教科書や国語資料集などの活用が日頃の学習に取り入れられていた結果と考える。
	B	76%	86%		
	C	78%	83%		
	D	24%	27%		
	問 2	52%	49%		
	問 3	67%	75%		
	問 4	71%	80%		
	問 5　Ⅰ	48%	63%		
	Ⅱ	70%	77%		
	Ⅲ	28%	29%		
	問 6	70%	75%		
	問 7	55%	64%		
	問 8	69%	80%		
3	問 1	94%	96%	「言葉は　紙ヒコーキのようなもの」という比喩を理解出来れば、全体の解釈は容易である。問自体も特に難しいものはない。	全体的によい出来であった。問 5 のみ得点率がやや低めだが、詩全体の内容に関する問いであり、このあたりの問題がしっかりと正解できる力をつけてほしい。
	問 2	77%	82%		
	問 3	83%	85%		
	問 4	97%	98%		
	問 5	54%	62%		
4	象形	25%	32%	漢字の成り立ちなど余計な情報に思えるかもしれない。しかし、5～6種類しかないので、パターン化すれば逆に効率よく勉強することができるはずだ。特に部首と音符の組み合わせである形声を意識しよう。	組み合わせる字はくり返し使わず、答えの数しかないという条件だから、どの字がどの種類かというところまではわかったようだ。しかし、あとは語彙力の問題で正しい語を作ることができていなかった。
	指事	17%	21%		
	会意	25%	32%		
	形声	20%	29%		

● 2022 年度　中学入試　第 2 回・グローバル　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	93%	95%	基本的な計算力と、特殊算の基本的な力があるかを確かめるための小問集合。 四則演算、仕事算、速さ、整数、場合の数、平面図形の計量、立体図形の計量の基本的な処理を問う問題である。	基本的でかつ典型的な問題が多かったため、受験者全体の得点率も高く、合格のためには落とすことのできない問題となった。 問5の正答率は想定よりも低く、考え方が難しかった様子であった。問7は計算ミスによる間違いが多く、正確に計算できる力も合否に影響したといえる。
	問 2	64%	78%		
	問 3	95%	97%		
	問 4	77%	89%		
	問 5	25%	34%		
	問 6	94%	98%		
	問 7	42%	53%		
	問 8	50%	60%		
2	問 1	85%	96%	特殊算の基本的な問題と整数の要素を組み合わせた問題。 問3の整数の問題については、条件をしっかりと整理して、問題に合う状況を見つけ出せるかがポイントである。	計算問題についてはしっかりと解ける受験生が多く、比較的高い得点率となった。反面、条件を整理する必要のある問3については、うまく情報を整理できずに考え方の一歩めが見いだせない受験生が多かった様子である。
	問 2	83%	92%		
	問 3	20%	29%		
3	問 1	77%	93%	本校でもよく出題される平面図形の問題。 平行線と辺の比の基本的な知識や、線分比と面積比の考え方などが理解できているかがポイントとなる。難易度は高くなく、標準的な問題である。	問1は面積比の基本的な問題であり、全体的な得点率は高かったが、合格者との得点率に開きがあり、合格のためには落とせない問題であったようである。 問2は線分比の問題で、この問題も合格者と全受験生の間にはやや得点率のひらきがあった。一つひとつの比を丁寧に調べていければ正答へたどりつける問題であったので、得点率の差からも合否を分ける問題の一つであったようである。
	問 2	62%	83%		
4	問 1	43%	54%	数の規則性をテーマにした問題で、標準的からやや難易度の高い出題である。規則性を導き出すための試行がやや多く、規則を見出しにくい問題である。そのため、じっくりと検証することがポイントとなる問題である。	数の規則をテーマにした問題で、問2については規則を見出すことが難しい問題のため、得点率の低さは致し方ないところである。問1の問題については、想定よりもやや低い得点率となった。計算が複雑なものになることはないので、求め方が定まらない受験生が多くいたと推察される。問題文に忠実に考えることが大事であった。
	問 2	16%	27%		
5	問 1	78%	89%	容器に水を入れ、水面の高さの変化を底面との関係から考えていく問題。 文章だけでなく、グラフを用いて変化の様子を考えることができるかがポイントであり、丁寧に変化の様子を計算で求めていくことが必要な問題である。	問1は基本的な問題であり、得点率も高かった。問2は、正解にたどり着くには、グラフの情報を読み取り正しく計算式を導くことが必要であり、合格のために必要な力を測る問題であったと言える。
	問 2	49%	71%		
	問 3	23%	35%		

● 2022 年度　中学入試　第 2 回　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1　(1) a	93%	97%	日本国内の自然環境と産業に関する一般的な問題に加えて，我が国と経済的なつながりの深い国々に関する問題を組み合わせた。地理分野で求めている「図表を読み取って考える」ことに加えて「位置関係の把握」を意識して出題した。	基礎的な問題については概ね正答を導き出すことができている。一方で、問3(2)・問4(2)のように都道府県・都市、周辺諸国の位置関係を考察する問いは正答率が低くなった。様々な地域の事象の理解とともに、地図上の位置関係の把握にも努めてほしい。
	(1) b	75%	78%		
	(2)	44%	52%		
	問 2　(1)	36%	49%		
	(2)	38%	41%		
	(3)	95%	99%		
	問 3　(1)	68%	78%		
	(2) ①	50%	59%		
	(2) ②	45%	52%		
	(3)	82%	91%		
	問 4　(1) f	87%	95%		
	(1) 理由	67%	82%		
	(2)	43%	53%		
	(3)	99%	100%		
	問 5	42%	57%		
2	問 1	62%	75%	感染症の歴史を問題文として提示し、その中で日本でどのような歴史が展開されてきたのかを問うた。時代ごとの正確な知識や、世界史の中の日本史という広い視野をもてるかどうかを見るための問題を出題した。	概ね合格者の方が10％程度正答率が高かったが、大きな差が見られたのは年代順の並べ替えや正誤判定の問題。一問一答のような知識の習得だけでなく、時代の流れ、時代背景などについても考察や理解を深めていくことが大切である。
	問 2	74%	83%		
	問 3	61%	77%		
	問 4	81%	88%		
	問 5	43%	54%		
	問 6	11%	20%		
	問 7	37%	51%		
	問 8	69%	78%		
	問 9	52%	65%		
	問 10　A	94%	99%		
	B	82%	92%		
	C	91%	98%		
	問 11	50%	61%		
	問 12	50%	66%		
	問 13	38%	52%		
	問 14	19%	26%		
	問 15	49%	64%		
3	問 1　(1)	31%	38%	全体的に難易度を少し上げて作成した。日頃の学習内容を、新聞・ニュースなどを通じて興味、関心を持つことにつなげる内容を問う出題を意識した。小学校の教科書レベルの基礎的知識の上にその応用力も重視した。ただ暗記するだけでは得点につながらない内容を出題している。	定番の問題の正答率は高いが、よく考えれば分かる問題の落とし（ミス）が散見された。EUのマーストリヒト条約のレベルは正解をしたいレベルと今後考えてもらいたい。いかに、日頃の勉強の派生を自宅学習とつなげることができるか、「社会教科＝ただの暗記」という概念を払拭できるかが1つの鍵となる。
	(2)	60%	64%		
	問 2	84%	91%		
	問 3	20%	22%		
	問 4　A	68%	80%		
	B	86%	93%		
	C	27%	35%		
	問 5	39%	43%		
	問 6	50%	59%		
	問 7	31%	37%		
	問 8	67%	69%		
	問 9　D	2%	4%		
	E	96%	98%		
	F	95%	98%		
	問 10	65%	73%		

● 2022 年度　中学入試　第 2 回　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1　(1)	47%	64%	植物が昆虫に花粉の媒介を託す戦略について述べた長文を読んだうえで、基礎知識の確認（問1、問2）および、生物の特質を考察させる問題（問3、問4）を出題した。	2000字前後の長い課題文にひるまずに立ち向かい、とりわけ問3の内容一致問題はよく文意を理解したうえで推論できていた。合格水準では全問正解か1問ミスで切り抜けたかというレベルでの争いになっていた。 各生物の特質をどこまで把握できているか、問1（1）（花びら・がくの目立たない植物の列挙）のようにノーヒントでいくつもの生物を検討すると実力差が出た。
	(2)(3)	75%	78%		
	問 2	74%	81%		
	問 3	27%	40%		
	問 4　(1)	56%	58%		
	(2)	69%	73%		
	(3)	72%	83%		
	(4)	54%	61%		
	(5)	73%	80%		
2	問 1	72%	88%	災害のひとつである台風について、基本的な知識を問いつつ、単位変換を行う桁の多い計算の処理能力をはかること、また問題文やデータを整理して結果を考察する力をはかることをねらいとした。	得点率はおおよそ想定通りではあった。しかし、問5［1］は表を見るだけで解ける問題だっただけに［2］の方が得点率が高いところを見ると図や表などからの情報収集力が身に付いていないように感じる。大学入試などでも図や表を用いた思考系の問題が増えていることもあり、今後、身に付けてもらいたい力である。
	問 2	78%	91%		
	問 3	90%	96%		
	問 4	66%	72%		
	問 5　[1]	39%	52%		
	[2]	45%	60%		
	問 6	45%	49%		
3	問 1	97%	99%	小学校の学習内容としてなじみのある題材である「酸素の発生法」に関して、与えられた情報を理解して適切に考えを進めていけるかを問うた。	問1の正答率が非常に高い。頻出の用語（物質名）を問うものである。一方、問5はきわめて正答率が低い。これは濃度を問う問題であるが、リード文の流れを踏まえて計算をしなければならないものである。誤答の大半は、リード文の内容を考慮せずに、道理に合わない誤った規則性から導いたと思われる値であった。素早いレスポンスができるように受験勉強をしてきたことはうかがえるが、さらに深く考える力を養ってもらいたい。
	問 2	48%	68%		
	問 3	60%	77%		
	問 4	51%	63%		
	問 5	5%	5%		
	問 6	31%	41%		
4	問 1	98%	100%	光の反射、屈折についての出題である。光の進み方についての基本事項、反射や屈折によって光の道すじがどのようになるか、見えることと光の道すじとの関係について問う内容となっている。	光の反射、屈折についての基本事項は多くの受験生が身につけており、光の道すじについて考えることができている。2枚の鏡に映る像についての考え方は受験生による差が見られた。全反射については、問題文の記述内容から判断する力を受験生には身につけてもらいたい。
	問 2	73%	85%		
	問 3	66%	78%		
	問 4	73%	86%		
	問 5	49%	66%		
	問 6	83%	90%		
	問 7	45%	61%		

● 2022 年度　中学入試　第 3 回　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1　a	89%	93%	本文の文脈に沿って読み解き、キーワードの同値、対比を整理し、筆者が述べる主題を理解出来ているかを問う。記述については設問に対する文中の具体例を示し、その特徴をプラス面マイナス面、それぞれ整理してまとめられるかを問う。語句については標準的な設問としているが、一部、語彙力の深さを問うものもある。	語句の問題について標準的なものは概ね出来ているが、日常的には使わない語彙力の深さを問う問題では正解率は低かった。記述は設問自体は標準的なものではあるが、問われていることの整理ができていないものが目立った。本文全体の理解は概ね出来ているが、キーワードの同値、対比の整理が不十分な点がみられた。
	b	90%	89%		
	c	93%	98%		
	d	25%	34%		
	問 2	50%	61%		
	問 3	28%	35%		
	問 4　X	57%	60%		
	Y	34%	35%		
	問 5	16%	19%		
	問 6	56%	64%		
	問 7	27%	34%		
	問 8	60%	66%		
2	問 1　X	55%	70%	菊池寛の時代小説を題材にした。語彙はもちろん、表現的にもなじみがないという意味で、受験生には難しく感じられたかもしれない。「忠直卿」の心情を読み取ることが問いの中心であり、正答の根拠となる部分をきちんと探し出せるかに尽きる。	問5は「杞憂」本来の意味と異なるため、設問で誘導した。「懸念」が「心配」と同意であることに気づけたか。問7は忠直が望んでいることは何かを考えてみる。問9も問7と同様で「勇気」とは真実を知ろうとする思い、と考えれば正解に至るはずである。
	Y	76%	92%		
	問 2	62%	78%		
	問 3	54%	65%		
	問 4	56%	77%		
	問 5	30%	39%		
	問 6	53%	63%		
	問 7	22%	28%		
	問 8	45%	51%		
	問 9	10%	10%		
	問 10	22%	29%		
3	問 1	38%	40%	表面上は難しくない言葉で紡がれた詩を出題した。ただ表面だけ見ていると主題がわからないかもしれない。また、詩は字数が少ない分、一つ一つの単語をしっかり注視しないと情景が浮かびづらいということを認識させたい。	毎年出題されている表現技法の得点率が低い。また、ねらいの一つであった「一つ一つの単語を注視する」ということについては問4の得点率が悪いため、取り組めていなかったと言うことだろう。 概して選択問題であればなんとか答えを導き出せるが、記述問題になるとどのように答をまとめていくかがつかめていないようだ。
	問 2	52%	60%		
	問 3	46%	61%		
	問 4　1	21%	25%		
	2	16%	20%		
	問 5	67%	81%		
4	問 1　①	56%	61%	読解力をあげるためには、いろいろな文章に数多く触れてもらうことが大切であり、読書はその最も有効な方法のひとつである。ここで取り上げた作品は一度は読んでおきたいものばかりである。	全受験生と合格者の得点率を比較すると、明らかに合格者の方が高いことがわかる。これは、合格者の方が読書量が多いということか。普段から本に接すること、そしてその積み重ねが国語力になるということをあらためて意識したい。
	②	45%	61%		
	③	77%	86%		
	④	45%	58%		
	問 2	11%	16%		

● 2022 年度　中学入試　第 3 回　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	95%	99%	基本的な計算力と、特殊算の基本的な力があるかを確かめるための小問集合。 四則演算、仕事算、場合の数、整数、図形（立体・平面）と、基本的な処理を問う出題である。	基本的な問題を多く出題した。また、比較的典型的な問題が多かったため、受験者全体の得点率も高く、合格のためには落とすことのできない問題となった。問5は問題文をしっかり読んでいない受験生が多く、受験者・合格者とも得点率は低かった。
	問 2	55%	81%		
	問 3	83%	98%		
	問 4	92%	95%		
	問 5	29%	47%		
	問 6	79%	92%		
	問 7	91%	94%		
	問 8	86%	95%		
2	問 1	73%	86%	本校でよく出題されるつるかめ算などの基本から標準的な問題、また、整数問題を加えた応用問題である。 難易度としては比較的中学入試の典型的な問題を中心としているため、問題の内容を理解して計算できる力を持っているかを問う出題である。	切手は5種類あるが、それぞれの問題において5種類を使っているわけではないので、複雑ではない。ただし、問3は問2が解けないと進むことはできないため、問3の正解率が下がった原因にもなった。しかし、合格者の正解率は悪くなく、合否を分ける問題となった。
	問 2	73%	87%		
	問 3	39%	63%		
3	問 1	57%	84%	本校でもよく出題される平面図形の問題。 平行線と辺の比の基本的な知識や、線分比と面積比の考え方などが理解できているかがポイントとなる。比の合成と面積比の標準的な問題である。	問1で3つの比を出題し、手がつけづらい問題と予想したが思ったほど悪くなかった。また、問2の方が2つの線分比であるため、難しくないという印象だったか、予想を上回る出来であった。一方で問3のような求積は、複雑になると手がつかなかったようで、正解率は低かった。
	問 2	63%	87%		
	問 3	7%	13%		
4	問 1	68%	87%	本校で出題されることがあまりない質問から数を予想するという数の理論の問題。 問2は3つの質問からいくつかの場合を予想して考えるという整数と場合の数を混ぜた問題であり、応用力を問う出題である。	問1は基本的な問題であるが、そもそも問題の意味を理解しているかどうかで正解・不正解が分かれた。また、問2は全通り挙げていくと時間がかかったり、ミスが出たりする可能性が高く、正解率は良くなかった。
	問 2	6%	10%		
5	問 1	52%	67%	立方体や直方体の展開図をテーマにした問題。6面の展開図を考える問題と、できるだけ体積が小さくなるように切りとるという、難易度が高く、かつ求める思考力も高い問題とした。	問1は立方体の展開図が頭の中にあれば、問題を読み取れた受験生は解けたようである。しかし、問題の意味が分からない受験生は手も足もでなかったようだ。また、問2は切り取るマスの数が3つと分かれば、あとは最も小さい体積を求められるかどうかである。しかし、時間がなかったのか正解率は低かった。
	問 2	13%	12%		

● 2022 年度　中学入試　第 3 回　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1　(1)	51%	67%	例年の出し方に沿って、都道府県をテーマに基本的な知識を確認することを主眼とした。	都道府県庁所在地名は記述させる設問は、平易な漢字だったため、正答率が高くなっている。全体を通しても大きく正答率が低くなった設問はないため、この大問1では8割を目標としておきたい。
	(2)	78%	90%		
	(3)	71%	89%		
	問 2　(1)	38%	54%		
	(2)	76%	81%		
	(3)	90%	96%		
	問 3　(1)	55%	65%		
	(2)	61%	78%		
	問 4　(1)	57%	58%		
	(2)	77%	92%		
	問 5　(1)	39%	48%		
	(2)	38%	47%		
2	問 1　(1)	70%	75%	奈良時代から明治・大正時代までの基本重要事項を中心に出題した。歴史的出来事の内容理解度を確認するとともに、中心人物等については正確な記述力を求めた。	一般的な基本重要問題では高い得点率となったものの、図版から人物を特定する問題や寺院の所在地や特産品の産地に関する問題ではいずれも低い得点率となった。日頃から教科書や資料集の図版や史料などにもしっかりと目を通し確認しておきたい。
	(2)	74%	90%		
	問 2　(1)	74%	83%		
	(2)	84%	94%		
	問 3　(1)	58%	72%		
	(2)	14%	18%		
	(3)	46%	63%		
	(4)	72%	84%		
	問 4　(1)	19%	22%		
	(2)	75%	84%		
	問 5　(1)	93%	95%		
	(2)	41%	36%		
	問 6　(1)	63%	75%		
	(2)	88%	90%		
3	問 1	20%	25%	国内外が抱える問題点などについて幅広い知識を問うことを目的として出題した。 社会的な出来事に対して日常的に興味関心を持っているかを問うことを主眼とした。	比較的基本的な知識と正確な記述力を問う問題であったので、得点率は良好であった。そのため、基本事項での失点は、大きな得点差となった。基本事項の反復学習と日常的にニュースなどに関心を持つことが大切である。
	問 2　(1)	51%	60%		
	(2)	67%	81%		
	(3)	26%	36%		
	問 3	60%	73%		
	問 4	13%	17%		
	問 5	73%	84%		
	問 6	49%	52%		
	問 7	54%	59%		
	問 8	95%	99%		
	問 9	94%	98%		
	問 10	77%	84%		

● 2022 年度　中学入試　第 3 回　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1	31%	41%	動物は肉食性、草食性、雑食性に大きく分けることができる。しかし、食べているものが異なるのに、どの動物の体にもタンパク質を主とする筋肉や脂肪などが含まれているのはなぜだろうか。なんとなく見落としてしまうような生き物の不思議について普段から関心をもち、考えることを大切にしているか問うてみた。	理科の「用語」についてはよく覚えられている。しかし、「しくみ」についてまで理解をしようという学習が不足しているのか、説明を求められる問題になると、とたんに答えられなくなる傾向が毎年のように見受けられる。特に、問3と問4については予想していた正答率よりも低く、意外な結果となった。
	問 2	64%	81%		
	問 3	34%	40%		
	問 4	33%	37%		
	問 5　記号	94%	99%		
	理由	42%	49%		
	問 6	7%	13%		
	問 7　名称	7%	17%		
	働き	13%	20%		
2	問 1	63%	73%	地図に示された火山島と海山の位置と形成年代の関係から、プレートの動く方向と速さを答える問題である。また、海洋で形成される火山と岩石の性質を理解しているかを問うている。	緯度と経度から地図の方位を読み取り、火山島や海山が動いた方向を正しく推測することが正解への近道である。また、玄武岩の性質と岩石のしくみの関係、及び火山の形状については比較的できていた。
	問 2	47%	57%		
	問 3	23%	34%		
	問 4	37%	57%		
	問 5	46%	63%		
	問 6	51%	63%		
	問 7	82%	90%		
3	問 1	97%	100%	塩酸の性質とその反応性にまつわる問題。 問1～問5は知識を問うた。 問6は反応から生じる物質や気体の量に関する計算問題で、表やグラフから適切に情報を読み取り、表・グラフ間の情報をつなぎ合わせることができるかを問うた。	性質と反応性に関する知識は非常に高く、基本的な知識を身につけていることは重要であるといえる。問3に関しては、中学入試においては頻出の内容ではなかったため、差がつきにくかった。 問6は、問題文の情報、表・グラフの情報を適切に繋ぎ合わせ、変換する情報整理能力が必要で、差が出た。問6(3)は反応の余りが考慮できずに誤答するケースが多かった。
	問 2	86%	92%		
	問 3	39%	42%		
	問 4	81%	88%		
	問 5	81%	94%		
	問 6　(1)	78%	93%		
	(2)	39%	61%		
	(3)	24%	35%		
4	問 1	47%	60%	電気の分野における基礎的な知識を問うだけではなく、与えられた規則性を用いて、応用することができるかをねらいとした。また、文章を素早く正確に読み取れるかもこの問いのねらいとした。	電気分野を苦手とする受験生が多いように感じた。問1の正答率が低いことも気にかかる。電流の流れる向き、電圧計と電流計の接続の仕方、電池のプラス、マイナスなどは正確に覚えましょう。また、見慣れない問題でも問題文をしっかり読み、与えられた条件を把握しましょう。
	問 2　(1)	24%	29%		
	(2)	26%	33%		
	(3)	7%	19%		
	(4)	7%	17%		
	問 3　(1)	23%	34%		
	(2)	4%	11%		
	(3)	8%	13%		

● 2022 年度　中学入試　第４回　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問１　a	87%	94%	そう難しくはない文章だが、しっかり筆者の意図が捉えられているかどうかが鍵になるように作問をした。問9の記述問題については「文章の読み取り→それを書く作業」を普段からやっている人が点数をとれるレベルに設定した。漢字も単に教育漢字の範囲内の難しい文字を出題するのではなく、語彙のレベルを上げた。	全般的に記号問題は正答率が高い。傍線部と離れた部分の抜き出し問題の得点率が低い。難易度が高いと考えて出題した問いよりも、比較的易しい問題で合格者と不合格者の差が大きい傾向が見られる。基本的な問題をしっかりと得点することが合格につながるということだろう。
	b	79%	89%		
	c	17%	32%		
	d	89%	94%		
	問２	10%	24%		
	問３	59%	81%		
	問４	74%	94%		
	問５	65%	74%		
	問６	48%	75%		
	問７　(1)	53%	66%		
	(2)	48%	66%		
	問８	63%	84%		
	問９	29%	41%		
2	問１	35%	45%	親子二人の会話を中心とした文章。心情を問う問題を多く出題した。解答する際にはリード文の前後に書かれている状況を正確に読み取り、根拠を踏まえたものを答えてほしい。直感による自分勝手な答え方では間違えてしまう問題を作問した。	全体的に難易度もそこまで高くなく、点数は取れていた。問1の語句の問題の正答率が低い。普段の生活で気になる言葉は調べる習慣を身につけてほしい。問8 (2) は情景描写でありながら心情の反映になっていることをつかむことが必要。
	問２　Ⅰ	75%	79%		
	Ⅱ	78%	92%		
	問３	74%	81%		
	問４	93%	100%		
	問５	38%	50%		
	問６	69%	82%		
	問７	69%	81%		
	問８　(1)	68%	82%		
	(2)	55%	66%		
3	問１	58%	79%	詩の連ごとのつながりや展開から作者が表現するイメージの変化が読み取れるかを問う。キーワードの同値、対比を読み取れているかを問う。基本的な詩における技法を理解しているかを問う。詩の大きなテーマを読み取れているかを問う。	基本的な詩の技法は概ね理解できている。詩中におけるイメージの変化については正確に読み取れているとは言えないように感じる。あわせて詩のテーマについての理解も半数以下にとどまっており、不十分だったように思う。キーワードの同値、対比の整理は合格者は出来ているように感じる。
	問２	60%	71%		
	問３　A	41%	47%		
	B	81%	90%		
	問４	29%	48%		
	問５	38%	40%		
4	①	55%	71%	本校の定番とも言える出題である。部首は漢字を構成する基となるものであり、部首を理解することによって効率的に漢字を学習できる。その点を十分に理解してもらうことを意図した。	「うかんむり」は「屋根をかぶせた家」のこと、「のぶん＝ぼくにょう」は「棒を手に持ってたたくさま」を表し、「にく（づき）」はその名のとおり「月」ではなく「肉」の意味を表す、など部首の意味がわかっていないと正解することは難しい。
	②	40%	58%		
	③	30%	50%		
	④	3%	6%		
	⑤	46%	56%		

● 2022 年度　中学入試　第４回　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問１	98%	100%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、商と余りからもとの整数を決定する問題、図形（平面・立体）の基本的な処理を問う出題とした。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。	得点力が極端に低いものはなく、よく解答していた。ただ、問５や問８など合格者と全受験生との得点率の差が大きい問題が多く見られた。特殊算や立体図形への対応力が合格するために必要だと感じられる。
	問２	75%	90%		
	問３	92%	95%		
	問４	93%	98%		
	問５	68%	92%		
	問６	78%	94%		
	問７	95%	100%		
	問８	60%	76%		
2	問１	82%	94%	多面体の辺の本数と頂点の数を求めさせる問題であり、会話文形式の出題とした。問1、２ともに途中式を考えさせる問題とし、辺の本数と頂点の数を暗記するだけでなく、理論的に求められるかを問う出題である。	問１は正十二面体の辺の数を求める計算式を問う出題であり、全体的に良く出来ていた。問２は特別な立体の頂点の数を求める問題であったが、答えは正解で途中式が不正解の受験生が散見された。暗記に頼り、理論的に考えることが難しい受験生が多い印象を受けた。
	問２	45%	69%		
3	問１	94%	98%	仕事算の標準レベルの問題である。問１は基本的な仕事算の問題、問２はそれぞれの機械を使わなかった時間の比から実際の時間を求めていく問題、問３は問２で求めた時間を利用して機械Ａを使った時間を求める問題である。	問１は全体的に良く出来ていた。問2、３は比を絡めた問題であり計算も複雑であるため、得点率が低くなってしまった。全受験生と合格者との差が大きい問題であるので、計算力も含めて確実に得点できるかが合否のカギになった。
	問２	17%	44%		
	問３	13%	35%		
4	問１	90%	97%	基本的な平面図形の計量問題で、入試説明会でもポイントに挙げた、比を絡めた出題である。問１は平面図形と比に関する典型的な問題、問２は補助線を引き、比を求める問題、問３は問1、２を利用して全体に対する四角形の面積の割合を求める問題である。	問１は全体的に良く出来ていた。問2、３に関しては合格者の得点率は高く、合格を目指す受験生は得点しておきたい。問題内容は典型的なものであるため、過去問などをとおして力をつけてもらいたい。
	問２	74%	95%		
	問３	29%	69%		
5	問１	0.7%	2%	タイルを敷き詰めてできる模様の場合の数を求める問題。すべてのパターンを漏れなく数え上げることができるかがカギとなる。問１は左右対称の模様のパターンを考える問題、問２は左右対称で上下対称ではない模様のパターンを考える問題である。	問１は【図2】の左半分のみを考えればよいことに気付けるかがポイント。条件整理が難しい問題であったため、得点率を下げてしまった。問２は問１を利用して考える問題であるため、まずは問１を確実に得点することを目標に力をつけてもらいたい。
	問２	0.5%	2%		

● 2022 年度　中学入試　第４回　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問１　(1)	67%	85%	日本の農業・地形・海流・自然災害・人口・都市に関する基本問題。自然災害に関しては、時事問題的要素を加えた出題となった。データから正誤を判別する力を確認する問題も出した。	全受験生の得点率が約55％となり、全体的には標準的難易度であったと思われる。ただし、時事問題的要素を含む自然災害に関する問題では、得点率が大きく低下した。日頃から新聞やニュースなどに幅広く注目しておきたい。
	(2)	96%	98%		
	(3)	57%	74%		
	問２　(1)	48%	52%		
	(2)	59%	73%		
	(3)	87%	95%		
	問３　(1)	70%	84%		
	(2)	41%	45%		
	(3)	1%	2%		
	問４　(1)	56%	82%		
	(2)	56%	73%		
	(3)	79%	90%		
	(4)	19%	34%		
	(5)	73%	85%		
	(6)	49%	81%		
2	問１	57%	77%	歴史分野の出題ではあるが、地理的知識を必要とする問題も加えた。地理、歴史、公民を分けて考えるのではなく、分野の融合を意識して社会の勉強に取り組んでいるかを意識して出題した。難易度が高いものも多いが、いかに易しい問題で得点を挙げられるかがカギとなる。	問７は想定外に正答率が低く、問題文をしっかり読まずに「琉球王国」と書かれた誤答が非常に多かった。問９の桂太郎は「桂」の漢字間違いが非常に多い。人物名や歴史的出来事は正確な漢字で書けるように日頃から意識して取り組んでいきたい。
	問２	43%	68%		
	問３	28%	50%		
	問４	16%	15%		
	問５	35%	47%		
	問６	35%	52%		
	問７	17%	24%		
	問８	76%	79%		
	問９	26%	35%		
	問10	30%	29%		
	問11	53%	65%		
	問12	46%	45%		
	問13	51%	60%		
3	問１　1	95%	100%	この一年間の出来事を通じて基本問題と時事問題を出題した。基本問題は日本国憲法に規定されている三権の仕組みを中心に政治分野を確認した。時事問題は衆議院議員選挙やオリンピックといった話題性の高い内容を扱い、基本問題に関連付けてその理解度を確認した。	日本国憲法に関する問題は毎年のごとく出題しているため、過去問題の学習は得点に大きな影響を与えた。日本国憲法に関する問題では、国会や裁判所の仕組みなど数字を伴う内容や類似した要素が多い内容は、きめ細かな学習が必要となった。時事問題に関しては、アウンサンスーチー、イギリスのEU離脱、COP26など話題性の高い内容や基本問題に関連した問題を出題したため、合格者の正解率が非常に高かった。
	2	94%	97%		
	問２	57%	68%		
	問３	29%	35%		
	問４	56%	68%		
	問５	86%	84%		
	問６	59%	71%		
	問７	74%	79%		
	問８	33%	55%		
	問９	48%	55%		
	問10	59%	79%		
	問11	90%	95%		
	問12	72%	84%		
	問13	34%	39%		
	問14　(1)	63%	79%		
	(2)	84%	89%		
	問15	71%	84%		

● 2022 年度　中学入試　第４回　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問１	90%	94%	植物の生育と植生の発達を結び付けて考察する課題文を読んだうえで、植物の生育に関する基礎知識（問1）と考察（問2、問4）、植生の発達に関する地理的な知識問題（問3）、月平均気温をもとにした統計的処理に基づく考察問題（問5、問6）を出題した。	問1、問3のような基礎知識の理解は万全。問2のような文意に沿っての簡単な推論をしっかりできるのは立派。問４では条件設定にあわないものが多かったのが残念。ここは点差がついた。一息ついて見直してみてほしい。問5、問6のように即答できない問題では、択一式問題ながら合格答案の執念が他を圧倒していた。諦めは合格に向けて一番の敗因であることを再認識させられた思いである。
	問２	89%	97%		
	問３	93%	94%		
	問４	36%	50%		
	問５	46%	74%		
	問６	21%	32%		
2	問１	87%	94%	地球の公転運動と地軸の傾きから、地球の公転半径の違い、季節、見ることのできる星座を理解できているかを問う問題である。また、算数で学んだ内容を活用して地球の大きさを求める問題である。	全体的に良くできていた。地球公転運動についてはほとんどできていた。地軸の傾きと季節の関係については、しっかりと押さえておきたい。太陽の南中高度は、季節によって変化することを理解することが正解への近道である。
	問２	65%	73%		
	問３	81%	90%		
	問４	76%	82%		
	問５	47%	69%		
	問６	47%	66%		
3	①	35%	53%	会話文から必要な情報を取り出して理解し、応用させる力を見る問題である。現象の原理から論理的に考えていくことを求める。圧力の考え方はイメージが難しいかもしれないが、自然現象を粒子の観点からとらえる感覚を日ごろから持ってもらいたい。	これまでに解いたことのない問題あるいは初めての考え方に対しても、その原理から適切に現象をとらえることが必要である。①および②は単位の変換などでミスが出やすく、注意が必要である。③以降は、知識の有無や計算力を問うものではなく、文章を読んで原理を理解できたかどうかが重要となる。特に、④は丁寧に誘導がされているので、確実に解いてもらいたい問題であった。
	②	18%	35%		
	③	42%	61%		
	④	16%	40%		
	⑤	42%	79%		
	⑥	4%	13%		
4	問１	79%	87%	ばねによる振動と、一定の速さで円運動する物体を比較する問題。ばねの性質はもちろんだが、初めての設定に対して、文章を読んで理解する力、考える力を必要としている問題である。	問1、2の基本問題に関してはよくできていた。問3以降、見慣れない円運動との比較の問題になるが、文章を読んで理解はできても、それを踏まえて解答を得るまでの力を発揮できた受験生は少なかったようだ。想像力と考える力を身に付けてもらいたい。
	問２	61%	84%		
	問３	27%	44%		
	問４	19%	35%		
	問５	48%	73%		
	問６	55%	82%		
	問７	13%	24%		
	問８	7%	18%		

● 2022 年度　中学入試　帰国生 AB 方式　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1　a	58%	70%	子どもの本離れについて述べた文章。すぐれた本の持つ良さとは、読者が想像力をはたかかせながら先の展開を予測できる。そして、そういった本を子どもに紹介し、読ませることが大人の役割である、としている。さらに、ダイジェストについても述べており、「真実味」を欠いた作品を批判しているが、こうした内容が読み取れるかが出題のポイントである。	問1b「助長」は語彙力がないと正解が難しかったようである。問3は抜き出し問題だが、指定された条件を十分に確認していないケースがかなり見受けられた。問5の記述問題は「大人の怠慢」とは何かを考えたうえで、そうならないために、どうすればよいかを考えるという過程が必要だが、問題の意図が理解出来ていない受験生が多数いた。問7はキーワード「真実味」を手がかりにして探すことで正解にたどりつく。
	b	21%	27%		
	c	62%	74%		
	d	68%	77%		
	問 2	74%	79%		
	問 3	39%	42%		
	問 4	61%	69%		
	問 5	18%	23%		
	問 6	54%	61%		
	問 7	7%	9%		
	問 8	63%	67%		
2	問 1	35%	47%	怪我で挫折した元プロ野球選手と、幼いときから彼を知っている主人公。二人の心理・心情を読み取る問題である。それは言葉ではっきり示されているわけではなく、「水かまきり」をはじめとする比喩などで表されている。小説の表現方法について考えてほしかった。	気持ちそのものを問う問題はできていたが、表現に関する問題は難しかったようだ。問1は倒置になっている次の文を含めて考える。問5は日本語の「が」と「は」の問題。普段使い分けているのに、説明は難しい。問6は、生きていると気づいたCの時点を正解とした。問7は「当てはまらないもの」を選ぶ問題。本文だけでなく、問いも注意深く読んでほしい。
	問 2	78%	83%		
	問 3	64%	70%		
	問 4	88%	94%		
	問 5	37%	46%		
	問 6	29%	34%		
	問 7	32%	36%		
3	問 1	33%	33%	短いことばからイメージの重なりを読み取り、作者の言いたいことをつかむことができるかが詩の読解のポイント。ここでは「春」という季節が「万物」つまりすべての動植物にとってすばらしい季節であることを詩中の表現から読み取ってほしい。中盤の「いい季節になった」というのが作品全体の主題で、末尾の力強い表現とともに作者のメッセージをつかみたい。	問1は難しかったようだ。「節」という語は「節句」のように季節の変わり目のお祝いのことだが、詩全体のテーマから考えてほしい。問3は表現技法とその効果についての設問だったが、その技法が使われているかどうかがわかれば判断できる問題。よくできていた。問4は特に末尾の力強い表現と、「春」という季節の意味を読み取ることがポイントだった。
	問 2	59%	63%		
	問 3	71%	76%		
	問 4	46%	53%		
4	問 1　①	73%	77%	同音異義語と漢字の部首名を答えさせる知識問題。漢字の学習においては必須の分野であり、問いもきわめて基本的なものである。	本校の定番とも言える出題であり、過去問の学習をとおしてその傾向をつかんでいる受験生も多かったためか、全体的に高い得点率となった。
	②	91%	96%		
	③	76%	83%		
	④	73%	79%		
	問 2	63%	70%		

● 2022 年度　中学入試　帰国生 AB 方式　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	92%	95%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、特殊算の基本問題、規則、図形（平面・立体）の計量を出題した。この問題をとおして、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問1･2は計算問題、問3～6は特殊算を幅広い分野から、問7・8は図形の問題を出題した。	昨年度に比べ、全体的に出来が良かった。基本的な力を見る問題が多かったが、昨年と比べ抽象的な問題（集合や場合の数）にも手をつけやすかったようである。一方で、問6のような受験算数特有の線分図や面積図を用いた問題の出来が思ったほど良くはなかったようである。
	問 2	91%	95%		
	問 3	67%	81%		
	問 4	88%	92%		
	問 5	64%	76%		
	問 6	45%	61%		
	問 7	60%	76%		
	問 8	45%	59%		
2	問 1	97%	98%	3つの管から水を出し入れする問題だが、基本的な仕事算の問題である。問2は特殊算を知らなくても解けるような問題構成にした。	基本的な仕事算をはじめとした特殊算ができれば、受験算数においては基本的な問題であり、取り組みやすい問題であったため、出来はかなり良かった。
	問 2	74%	90%		
3	問 1	88%	97%	本校の入試問題でよく取り上げられる旅人算の問題である。電車と2人それぞれの速さから様々な量を求める問題であり、基本的な計算を主としている。	受験算数においては標準的な内容であり、取り組みやすい問題であり、昨年度より出来はかなり良かった。また、文章や図から必要な情報をいかに早く正確に取り出せるかで、出来が分かれると思ったが、全体的によくできていたようである。
	問 2	78%	92%		
	問 3	54%	73%		
4	問 1	71%	85%	本校では特徴的な平面図形と比を絡める問題であり、三角形を題材にした。問1･問2は線分比、問3は面積の割合を求める問題である。平行線の補助線やメネラウスの定理など、図形に関する性質の定着度合も受験生に求めた。	昨年の正六角形と同様、本校がよくテーマとしている平行四辺形をもとにした線分比や面積比とは異なるが、平行四辺形で練習をしている生徒は問題なかったようで、今回の合否に大きく影響した問題だった。問2のような連比の問題は、ここ数年の受験生は少し苦手にしているようで、今回もその傾向が表れたようである。
	問 2	34%	51%		
	問 3	28%	44%		
5	問 1	34%	49%	箱の積み重ね方の手順の数を求める問題。手順の例を出し、それをもとに、個数を増やしていったときに、規則を見つけて数えることができるかどうかという、問題の文章から推測できるかどうかを問う。	問題文のルールの理解は難しくないが、効率よく処理できているかどうかで出来が分かれた。この問題までに早く解き終わっていれば、落ち着いて数え上げることができたはずである。さらに問2は問1の状況をうまく利用できているかで出来が分かれた。
	問 2	11%	19%		

● 2022 年度　中学入試　帰国生 A 方式　英語　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	Q1	55%	67%	英検準１級程度に必要とされる基本的な語句を出題。文脈の中で適切な語（句）選択し、綴れるのかを狙いとした。レベルは例年通りを心掛けた。選択式が６問。記述式が４問であった。	概ねできている。文脈の中で適切な語（句）を選択できている。正答の語の抽象度が上がると少し正答率が落ちる。６年後の大学入試を踏まえると綴る練習も怠らないで欲しい。
	Q2	66%	77%		
	Q3	55%	59%		
	Q4	57%	64%		
	Q5	57%	74%		
	Q6	29%	30%		
	Q7	43%	61%		
	Q8	84%	95%		
	Q9	17%	23%		
	Q10	68%	77%		
2	(1)	59%	74%	２者による長めの英会話の文を読み、その内容を理解した上で、選択肢から空所を埋めて全体を要約させる問題である。受験生の英語読解力と論理性を伴った思考ができるかを問うている。	全受験生と合格者の得点率は十分相関性があり、妥当な結果であった。選択式問題なので、小学６年生としてある程度ロジカルな思考ができる帰国児童にとっては容易な問題が中心であり、合否の点差は主に英語理解力の差と考えられる。(2) は fine の二義的な意味『細かい』の知識が必要で、やや難しかったかも知れない。
	(2)	10%	11%		
	(3)	62%	80%		
	(4)	42%	52%		
	(5)	74%	89%		
	(6)	59%	80%		
	(7)	64%	79%		
	(8)	48%	62%		
	(9)	50%	56%		
	(10)	52%	62%		
3	Q1	66%	81%	文全体の構造を正確に把握する問いと、基本的な文法事項を理解したうえで語句整序する問題の２種類であった。知識よりは英文を正確に理解できているのかを確認する基本的問題が並んだと言えよう。	英文を正確に読み進めていくには文構造の理解が欠かせない。感覚で読むのではなく一つ一つの文法事項を理解したうえで読解にも臨んでほしい。今回の問いでは動詞の用法の理解不足が想定以上に感じられた。基本的問題が多かったので５問共に正解してもらいたいと感じた。
	Q2	48%	61%		
	Q3	62%	72%		
	Q4	60%	73%		
	Q5	70%	91%		
4	A　(A)	37%	44%	クジラやイルカが海中でどのようなコミュニケーションを取っているかについての説明文であり、人間と比較対照をしながら説明されている。また、海中における人間の使用する機材による騒音が海中生物のコミュニケーションの障害となっているという環境問題にも触れており、論理の流れを理解するとともに時事問題への関心が求められる。	設問Aの (A) (B) は文の流れを決定づける表現、いわゆるディスコースマーカーを選択する問題。設問Bは本文の内容と一致するものを選択する問題。なじみやすい内容であったため文章理解の方は比較的高得点となった。一方ディスコースマーカーの問題は「主張→具体例」「理由→結論」などの因果関係をつかむことに、やや苦戦していたようであった。
	(B)	62%	77%		
	B	70%	84%		
5	Q1	61%	68%	すべて記述式の長文問題である。全文和訳や指示された内容を答える問題を通じ、あえて日本語の運用能力も問うた。また、長文中の語彙レベルはあえて低く設定しているものの、指示語が何を指しているかや、話の流れをしっかりと理解し日本語で説明できるかが正答の鍵となる問題である。	本文内の語句に難しいものはなかった。もし知らない語句があったとしても前後関係で読み取ることができたようである。また、本文の語数に関しては例年同様であったため、じっくりと読み込み、丁寧に記述すればすべての問題において正答率を上げることができたはずである。Q3の正答率が一番低くなっているのは、内容は理解しているものの、日本語での説明に苦労した受験生が多かった結果である。
	Q2	53%	66%		
	Q3	34%	45%		
	Q4	38%	56%		

● 2022 年度　中学入試　帰国生 B 方式　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1	94%	100%	河川をテーマに地理分野と歴史分野を出題した。設問ごとの単位では地理、歴史が明確に分かれており、基本的な知識の習得を前提に正誤文の判定などを出題した。	全体を通して高い正答率が並んだ。問5（1）は、『漢書』地理志、『後漢書』東夷伝、『魏志』倭人伝にそれぞれ何が書かれていたかを理解しておかないと厳しい。ただし、ここを無理に正解しなくても他でしっかりと正解しておけば申し分ない。
	問 2	47%	56%		
	問 3	66%	75%		
	問 4	50%	59%		
	問 5　（1）	16%	13%		
	（2）	85%	94%		
	問 6	50%	54%		
	問 7	88%	99%		
	問 8　（1）	55%	63%		
	（2）	77%	91%		
	問 9　（1）	53%	61%		
	（2）	80%	80%		
	問 10	80%	86%		
2	問 1　（1）	92%	95%	明治時代以降の条約をテーマに歴史分野と公民分野の出題をおこなった。歴史分野では並べ替えを出題し、知識を結びつけられているかを確認した。	全体を通して予想よりも高い正答率が並んだ。意外だったのは問6（1）の正答率。予想よりもかなり低い結果となった。問8、問9は聞いたことはあるが、やや雑に知識が入りやすい部分ではあるので注意をしておきたい内容。
	（2）	76%	88%		
	問 2	73%	80%		
	問 3	65%	79%		
	問 4	70%	78%		
	問 5	48%	55%		
	問 6　（1）	29%	36%		
	（2）	80%	88%		
	（3）	94%	100%		
	問 7	69%	66%		
	問 8	50%	50%		
	問 9	38%	45%		
	問 10	34%	45%		
	問 11	61%	68%		

● 2022 年度　中学入試　帰国生 B 方式　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1	73%	83%	タンポポ、アブラナというありふれた植物（問1～問4）と、観察技術（問7）に関する知識問題のほか、外来種の性質がいかに生息域を広げているのに役立っているのかを考察する問題（問5）、測定結果を数理的に解釈する問題（問6、問8）のように、見慣れた問題のみならず、目の前の事実から考察を深められるかを求めた。	生物分野では、個々の生物の性質をどこまで網羅的に把握できるかは受験生の間で差がつきやすい。正答率の高い問1であっても点差がついている。また、問7の顕微鏡観察方法をはじめ、問3のタンポポのおしべ、めしべのように理解で盲点になっているところがみられた。また、知る人も多い外来種のセイヨウタンポポが在来種を駆逐している事実から、問5のようにその理由まで想像をする科学的態度をぜひ持っていていただきたい。
	問 2	82%	86%		
	問 3	28%	31%		
	問 4	41%	45%		
	問 5	34%	30%		
	問 6	50%	58%		
	問 7	35%	48%		
	問 8	10%	15%		
2	問 1	56%	58%	空気中に含まれる水蒸気の量と湿度及び露点の関係について問うている。また、地球表面での水の循環について、与えられた数値から推定できるかを見る問題である。	湿度を求める計算と露点の関係についてはよくできていた。また、水蒸気が凝結して水滴になる現象については、しっかり押さえておきたい。地球表面での水の循環については陸上の量と海上の量の違いを把握することが正解の近道である。
	問 2	69%	71%		
	問 3	80%	89%		
	問 4　X、Y	66%	73%		
	問 5	73%	84%		
	問 6	34%	45%		
3	問 1	50%	56%	銅の酸化と還元にまつわる知識と計算力を問うた。文章を読み取る力や、グラフの意図を読み取る力、それを関連づけて理解する力が必要であった。	短い時間の中で、文章がやや長く、情報量も多かったため、情報を読み取り、整理していくことが難しかったように感じる。質量保存の法則を用いた計算や、比の計算、過不足のある反応の計算など、頻出問題でありながら、読み取る力の部分で差がついた問題が多かった。
	問 2	24%	26%		
	問 3	94%	96%		
	問 4	53%	70%		
	問 5	30%	35%		
	問 6	30%	43%		
	問 7	15%	21%		
4	問 1	91%	95%	水平方向に投げられた小球の運動を、表中のデータを用いて考察する問題である。このデータの規則性を素早く見つけられるかがポイントになる。見慣れない問題でも対応することができるかをねらいとした。	想定しているよりもどの問題もよくできている。規則性を見つけることができれば難しくはないが、時間的な制約がある中で正答率が高かったのは立派である。
	問 2	94%	98%		
	問 3	78%	90%		
	問 4　（1）	84%	94%		
	（2）	85%	96%		
	問 5	75%	86%		

● 2022 年度　中学入試　グローバル方式　英語　設問別得点率 ※グローバル方式の算数の分析は第２回入試と合わせて掲載(P.26)

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問１	26%	47%	会話文中の空欄に入る適切な動詞を選ぶ問題。基本動詞等の語彙力を問う。もし必要があれば、文脈に合わせて正しい形に直さなければならない。したがって、不規則変化動詞の知識も必要とされる。	基本動詞については、習熟度のかなり高い受験生が本試験に挑戦しているようである。ただ、語形変化となると多少苦慮している傾向が見られる。特に、不規則動詞の変化には注意が必要である。
	問２	57%	47%		
	問３	57%	67%		
	問４	23%	20%		
	問５	14%	20%		
	問６	57%	47%		
	問７	91%	100%		
	問８	46%	53%		
	問９	31%	33%		
	問 10	74%	87%		
2	問１	94%	100%	単語、熟語、文法の知識を統合し、文脈に合わせて適切な英文を完成させる能力を問う。各問とも5語を並べ替えた上で、2番目と4番目の組み合わせを解答する。単なる知識の寄せ集めでは対応できない。英作文につながる力の有無を確認する問題。	英検準２級レベルを意識した問題が多く含まれる中で、非常によく対応できているようであった。群動詞、熟語などの知識も定着しているようであり、特に合格者の正答率は、ほとんどの設問において100％となっている。合格者に対しては、今後の活躍が大いに期待される。
	問２	100%	100%		
	問３	91%	100%		
	問４	94%	100%		
	問５	89%	100%		
	問６	100%	100%		
	問７	94%	100%		
	問８	91%	93%		
	問９	86%	87%		
	問 10	100%	100%		
3		98%	100%	メール形式の長文問題である。筆者と相手の人物との関連や起こった出来事などを時系列順に思考できるかなどを問うた。設問に対しては、特にだれがいつどこでどうしたかをきちんと掌握する必要がある。解答は番号で答えさせる形式で上記内容が分かっているかどうかが解答へのカギとなっている。	正答率は例年通り比較的高い結果となった。不正解の選択肢についても、紛らわしいものは含まれていない。起こった出来事をきちんと把握できず、正答まで到達できなかった生徒が若干見受けられたが、英検準二級レベルとしてはほぼ適切な出題であったと思われる。
4	問１　①	37%	47%	論説文を、いかに筋道立てて読み進めて行けるかを問う問題。そのために、話のポイントとなる語を空欄にすることで、その前後の内容からいかに正確に空欄の語を推測できるかを問うた。	正答率から見ると、合否を分けるのはやはり語彙であることが分かる。特に問１①や④のような少し語彙レベルが高めの単語や熟語を知っているか否かが大きなポイントとなった。
	②	83%	87%		
	③	80%	73%		
	④	69%	87%		
	⑤	97%	100%		
	⑥	74%	87%		
	問２	69%	80%		
5	問１	46%	44%	長めの英文を読み、日本語訳も含めその内容を把握できているかを確認する問題。和訳を出題しているのは、内容を理解しながら適切に日本語に訳せるかを問うためである。和訳は長文全体の流れの中での一文を的確に理解しているか、また文法を理解して和訳してるかにポイントを置いた。内容理解問題では、段落毎にきちんと内容をまとめながら読み進めていくことができるかに主眼を置いている。	準２級レベルの問題である。内容的に小学生には馴染みの薄いものであるかと思われるが、得点率の高い問題も多く、十分な実力があると判断することができる。和訳の採点は内容理解ができているかを中心に考えて行った。受験生の解答から、訳す際にやや難渋した様子のもの、必要のないところを訳すなどのものも散見されたが、英文の主張や話の流れを正確に把握している様子が感じられた。
	問２　(1)	89%	87%		
	(2)	83%	93%		
	(3)	94%	93%		
	(4)	91%	100%		